

お客様からのおたより

刃紋シリーズ楽しかったです。

昨年、NHKの時代劇の牡丹燈籠で、劇中の刀剣店のシーンで、津田丸が出てきていました。

自分の中で時代劇の楽しみ方が少し変わったと感じました。

忠吉の短刀(あいくち)を手に入れました。紀州藩の名家の物だったそうで、サヤは青貝散らしの螺鈿細工、柄は、鯨の髭巻です。忠吉にしては珍しい、互の目というより重花丁子の様な、雲の様な綺麗な刃紋でした。枕の下に置いて寝ています。グッスリ眠れる様になりました。

「語りますっ!大和魂」を気に入って頂き、大変嬉しく思います。登場してくるお店・物等に目がいくということは時代劇のストーリーだけではなく楽しみ方が増えたのでしょうか。実は私も、時代劇中の鎧などを目にするレプリカの鎧で「残念だな・・・」と思ったりします。刀には魂が宿っていて刀が持つ人を選ぶと聞いたことがあります。枕の下に置いて、ぐっすり眠られるということは、忠吉の刀はT様と一緒にいることが、とても居心地がいいのでしょうかね^^ 素敵ですね!!!鯨の髭を糸のように取り出す方法が、後世へ伝わっていない鯨髭巻柄は、大変珍しいものですね!御守り刀として、これからも一緒に時を過ごしてください。素敵なコメントありがとうございました!



島谷

ニュースレターを初めて頂きました!「大和魂」面白いですね! 39号をいただきましたが刃文の記事よかったです。バックナンバーが欲しくなりました。送料お支払いしますので33号から一部ずついただけませんか?

ニュースレターありがとうございます。合戦の中で「刀」の使われた実態を時代別に特集してもらえませんか?

「語りますっ!大和魂」を気に入って頂き、以前の記事を読みたいと言って頂きありがとうございます!送らせて頂きますので、ぜひ楽しんでください。今号も楽しんで頂けたら、嬉しいです。今後とも、読んで満足して頂ける記事作成していきますので、楽しみにしててください。



ご意見ありがとうございます。調べて、今後の記事にしてみますね。今後ともニュースレターをどうぞよろしくお願い致します!



届けますっ! 大和魂 2021年2月 Vol.40

経営理念

有限会社大名は「届けますっ大和魂!」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

今年の一文字挨拶

出

こんにちは、花本隆資です。昨年もお愛顧頂きまして、誠にありがとうございます。2021年、今年は「出」という漢字をスローガンにしていこうと思っております。昨年はコロナの影響もあり、色々行きたかったところに出かけることが出来ませんでした。今年はこちらに「出かけていこう」と思います。また、お客様満足度・社員満足度のみならず、福度を高められるように、沢山の声を聞き出す。そんな一年にしていきたいと思います。本年もどうぞ、宜しくお願い致します。

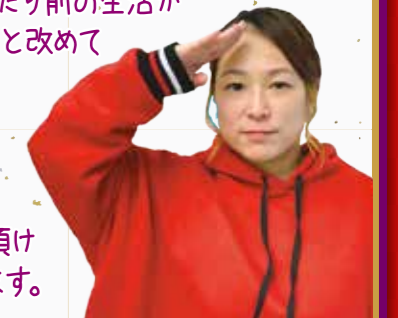


明けましておめでとうございます。島谷貴子です。本年もどうぞよろしくお願い致します。私の今年の一文字は「勝」。フットベースボールの監督となって3年目となります。高学年の多いチームとなったので、今年こそは優勝目指します。そして、自分で「難しい」「できないかも」となりがちな弱さにも打ち勝ち、マイナスな言葉を使わないようにしていきたいと思っております。

勝

敬

こんにちは、中堀明美です。2021年もどうぞよろしくお願い致します。私の今年の一文字は「敬」です。コロナウイルスで、当たり前の生活ができなくなり、当たり前の生活こそが本当に幸せなんだと改めて気が付きました。感謝をする事はあっても、心から敬っていなかったように思います。全ての事に、敬う事を今年の抱負にしようと思っております。また、敬語も苦手なので…敬語も勉強したいと思います。変な敬語を使っていたら、ご愛嬌だと思って頂ければ嬉しいです(笑)。本年もどうぞよろしくお願い致します。



新春 お年玉プレゼント

弊社のお客様が過去に当選された賞品

今年はあなたに当たるかも!?

同封の応募用紙に以下の項目全てご記入の上 Fax・メール・はがきにてご応募下さい。

- 1 クイズの答え
- 2 大和魂の正直な感想(酷評歓迎)
- 3 大名、大和魂へのご要望

※当選された方は写真を掲載させて頂きますのでご了承下さい。



今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。

件名:ニュースレター返信と入力して送信して下さい。



最新情報はホームページ <https://daimyou.com/>

有限会社

大名

広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp

TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

こんにちは。中堀明美です。
今号では「槍」について語らせて頂きます。



語ります 大和魂



～元は石から～

いしやり 石槍 縄文・弥生時代、石の先端を尖らせ、落とし穴に落ちた動物にとどめを刺す為、使用したといわれています。

～槍が主流になったのは～

南北朝時代に大規模な戦が頻繁に巻き起こるようになると、弓や刀剣のように扱う訓練がいらない槍が主流になりました。

「叩く」「突く」「払う」と扱いやすい事もあり、槍を持った足軽隊が増えていきます。最も使用されたのは「徒立戦(かちだちせん:徒歩での戦い)」が主流となる室町時代からでした。合戦において先陣を切って戦っていたのは、槍部隊です。槍部隊が強ければ、武将が率いた軍の評価に直結していました。この時代、槍部隊が行っていたのは意外にも「突く」のではなく「叩く」ことでした。約6.4mほどの長槍を使用し、敵の頭部などを叩く攻撃の破壊力は凄まじく、「突き」の10倍を超える衝撃を与えたとも言われています。槍部隊を活用した新たな戦略も考案されました。「槍衾(やりぶすま)です。槍先を前面に向け、隙間を作らないように槍部隊を並べることで、敵の騎馬隊の侵入を防いだ槍衾は、戦国時代の標準的な戦略となりました。



～1,000の兵で3,000の兵を破った!?「菊池千本槍」～



「箱根・竹ノ下の戦い1336年:建武3年(はこねたけのしたのたたかい)」で「菊池武重(きくちたけしげ)」が竹の先に短刀を縛って武器としたことが始まりと言われています。武重率いる菊池軍千人は足利軍三千人の敵兵に取り囲まれ、とっさの機転で部下達に周囲に生えていた竹を切らせ短刀をつけさせました。そして相手が攻撃してきたタイミングで一斉に槍を突き立てさせました。これが最初の槍衾と云われています。この作戦は大成功を収め、武重は菊池(九州)に帰った後、延寿鍛冶に槍をつくらせました。これが『菊池千本槍』と呼ばれるようになりました。

刃長は約18cmと約30cmの2種類があります。約30cmのほうを「数取り(かずとり)」と呼び、隊長が所持していました。長さが異なる菊池槍を使用することで、一目見て階級が分かるようにしていました。



特徴	①刀身に短刀を使用しているため、片刃となっている。	②切先は横手のない鵜の首造りになる。	③ハバキ元には刀と同様、刃区・棟区をつける。	④身幅が狭く、重ねが厚い。	⑤茎は槍同様、長い幅は刀同様に広い。

まさに戦闘の為に、考え出された槍ですね!!槍を調べるまで、戦闘では脇役だと思っていました…ですが、槍なくして戦に勝てなかった事が分かりました。幕末には、南北朝ゆかりの槍ということで短刀に仕立て直したり、明治以降は海軍士官の短剣にするのも流行ったそうです。槍としても、短刀としても活用できる菊池槍は実践向きな槍だということですね。次号でも槍について語らせて頂きます♪



ハナエモン

タイムスリップ!



前号は現行一万円札の顔・福沢諭吉さん。

今号は2024年度に刷新される一万円札のこの方にタア～イムスリップ!

生涯に渡って設立・運営に関わった企業は500社と云われています。

日本最古の銀行・第一国立銀行(現:みずほ銀行)、東京海上火災保険(現:東京海上日動火災保険)、東京証券取引所、麒麟麦酒(現:キリンホールディングス)、サッポロビール(現:サッポロホールディングス)などなど。私達の日頃の生活に関わっている企業など多岐にわたります。また、関わった教育・社会事業は600以上と云われています。

日本資本主義の父

渋沢栄一

しぶさわ えいいち 1840~1931年



そのうらじょうい 尊王攘夷派から幕臣に!?

現埼玉県深谷市にあった豪農の家に長男として生まれた栄一。裕福な家庭に生まれたことで、小さい時から色々な学問を学び、剣術は神道無念流を学んでいたそうです。

19歳で江戸に出て、北辰一刀流の道場に入門し、そこで勤王志士達と交流をするようになったそうです。23歳の時、高崎城(現在の群馬県高崎市にある城) 乗り取り計画を立て、幕府を倒そうとした栄一。従兄弟の説得のお陰もあり、中止に。父から勤王され京都に。八月十八日の政変により、尊攘派志士達が凋落したことも重なり、尊攘派としての活動が出来なくなりました。江戸にいた頃から交流のあった一橋家家来の推薦で、一橋慶喜(後の15代将軍)の家来になることに。慶喜が将軍に就任することで、幕臣となり明治維新後まで仕えた。



私腹の為ではなく、国の為

山の企業設立に関わった栄一。さぞかし巨万の富、財閥を築いたのかと思いきや、そうではありません。世界大戦前の日本では、三菱や三井といった財閥が成長していった時期です。財閥の多くは、株式を公開せず、一族で所有するのが当たり前だったそうです。栄一は民間からの出資を重視し、株式の保有割合も数パーセントだったそうです。企業が成長曲線に乗ると、次の企業・事業に関わっていったそうです。経営学者のピーター・ドラッカーは「経営の社会的責任について、渋沢栄一の右に出る者を知らない。彼は世界の誰よりも早く、経営の本質は責任にほかならないということを見抜いていた」と述べているそうです。

技術発達により紙幣の顔に

日本を代表する経済人として、紙幣の肖像候補者として名前が挙がっていた栄一。当時は偽造防止の為に髭のある人物が採用されていたそうです。近年の技術発達により、髭のない人物、女性も選ばれるようになったそうです。ちなみに紙幣を印刷する事業の印刷局長・当時の紙幣頭の初代は渋沢栄一です。



渋沢栄一は、2021年2月から始まる大河ドラマの主人公ですね。大河ドラマでも色々な顔の渋沢栄一が見られると思います。どんなエピソードがあるのか楽しみです。

渋沢栄一の言葉に「一人ひとりに天の使命があり、その天命を楽しんで生きることが、処世上の第一要件である」という言葉があります。2021年も昨年と同様に、コロナの影響が色々ある一年だと思えます。この時代に生きる意味を考えながら、お客様・社員・家族と楽しく過ごしていける一年であればと思っています。今年も引き続き、宜しく願い致します。

